

# テクノロジーと音楽及び多様な表現媒体を融合させた参加型ミュージカルの実践

## 岡山参加型ミュージカル実行委員会

### 活動の目的

テクノロジーや音楽を含む、多様な表現媒体を準備することで、高齢者や乳幼児、様々な興味関心やハンディを持つ児童、生徒、大学生を含む地域の皆様が、誰でも参加して楽しめるミュージカルの実践的モデルを構築することを本活動の目的とした。研究代表者等は、これまで数年にわたり、ユニバーサルデザインや、ダイバーシティに重きを置いた音楽活動、特に参加型ワークショップを全国津々浦々、様々な場面で実践してきているが、今回特に電子テクノロジーと音楽、動きと物語の密接な関わり合いに着目することとした。

### 活動の内容及び経過

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本来令和2年度に完結させる予定であった本企画だが、令和3年度に実施形態や日程、会場を変更して、小規模なワークショップを執り行った。4月当初、本活動の参加者を募集し、同時に特別支援学校、認定こども園、子育て支援拠点で、複数回世代を超えて楽しめる参加型ミュージカルのワークショップを行う予定だったが、大人数の募集や学校園での活動は自粛判断となった。しかし少人数での参加が可能であるとの判断から、これまでに私どもの企画にご参加くださった方々を中心に、小規模ながら、リハーサル、そして夏にワークショップとして本番を行うことができた。チャイコフスキー作曲『くるみ割り人形』を題材に、音楽と身体表現、電子テクノロジー、物語を組み合わせ、融合的な表現の創出に取り組んだ。

### 活動の成果・効果

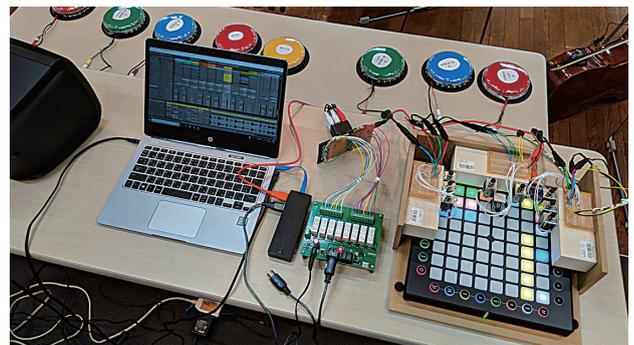
2020年8月30日（日）岡山県総合グランドクラブハウス内『キューティパイ倶楽部』にて、『『くるみ割り人形』テクノロジーと音楽のコラボ・ワークショップ』と題したワークショップを実施した。チャイコフスキー作曲『くるみ割り人形』を題材に、絵本の創作、読み聴かせやダンス、電子テクノロジーやバイオリンを含む楽器体験や演奏を、組み合わせて表現を工夫した。電子テクノロジーは、就実大学中西裕教授の支援を得て、『行進曲』の電子演奏や、争いの場面では、効果音、参加児童が手作りで作った盾や刀の動きと音を融合的・即興的に表現できた。ピアノ演奏は美作学園より木村みどり先生をお迎えし、最後は参加者全員スカーフを持って『花のワルツ』を楽しんだ。手指消毒やマスクの着用に加え、全ての窓や扉を開け放し、距離を確保し、感染対策を万全に無事企画を終えることができた。参加親子10組。



手作りの刀と盾を手に



感染対策をとりながらの実施



中西教授による機器

### 今後の課題と問題点

新型コロナウイルス感染症の対応に追われ、大幅な当初の計画の変更や、さらなる変更の繰り返しに追われる事態となり、限定的な成果になってしまったことが悔やまれる。当初は3月に岡山シンフォニーにて200名規模の大型イベントを予定していたが、こちらは断念せざるをえなかった。また学校園への訪問や大規模な広報は自粛する判断となった。テクノロジーとの融合は大きな成果が出せたものの、重度重複障害児や高齢者の巻き込みが叶わなかった。また県北を含む遠方からこれまでご参加くださっていた参加親子、ご高齢者も、今回は移動距離の関係で参加を断念せざるをえなかった。

- 代表者：壽谷静香
- E-MAIL：sutani-si@mimasaka.ac.jp
- 設立年：2019年 ●メンバー数：7名